

京都大学人文科学研究所共同研究最終報告書

1. 研究課題

現代 / 世界とは何か? — 人文学の視点から

2. 研究代表者氏名

小関隆、岡田暁生

KOSEKI Takashi, OKADA Akeo

3. 研究期間

2015年04月 - 2018年03月

4. 研究目的

本研究班は「第一次世界大戦の総合的研究」(2007~2015年)の成果を引き継ぎ、それをより大きな現代史 / 20世紀史の文脈で検討することを目的とする。「一体化した現代世界」をつくりだした「現代の起点」たる第一次大戦によって惹起された諸問題のあるものは克服され、あるものは100年後の今日まで残存し、またあるものはその相貌を変えた。本研究班が検討の俎上に載せる具体的なテーマとして想定されるのは、デモクラシーの変容、グローバリズムとローカリズム / ナショナリズムの相克、パラミリタリ暴力とテロリズムの台頭、プロパガンダと大量消費社会のかかわり、テクノロジーの暴走、モダニズムの命運、等である。「近代」と「現代」の連続性と非連続性、あるいは両者の地域的な相違も重要なテーマとなりうる。また、「人文学の視点から」というサブタイトルが含意するのは、第一次大戦によって「ヨーロッパ諸学の危機」(フッサール)がもたらされた状況を受け、今日の人文学は現代 / 世界に対して何をいいうるのか、という存在論的な問いである。

This project intends to further develop the academic achievements of the previous project, 'A Trans-disciplinary Study of the First World War', and to examine them in the larger contexts of modern/twentieth century history. As a foundational moment of the 'modern world', the First World War brought about various 'modern' questions, some of which have been resolved, while others remain unresolved. Some of them have changed their appearance, keeping their essence intact. Topics to be examined in our project are: the transformation of democracy, the changing relationship between globalism and localism/nationalism, the rise of paramilitary violence and terrorism, the rise and decline of 'modern' arts, the continuity and discontinuity between 'kindai' and 'gendai', and so on. The subtitle of the project, 'from the

viewpoint of humanities’, implies an ontological question, that is: in the age following ‘the crisis of European sciences’ (Edmund Husserl), can humanities effectively tackle the questions posed by the ‘modern world’?

8. 共同研究会に関連した公表実績

東アジア歴史研究フォーラム「東アジアにおける歴史認識と歴史教育」(2016年11月4日～5日、京都大学人文科学研究所)

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

2015年に発足した本研究班は2017年度で最終年度となる。中間的な研究成果の公開は2015年11月28～29日の国際カンファレンスや2016年11月4～5日の国際フォーラムで行ってきたが、最終的には論集としてとりまとめることを予定している。論集の構想に関する話し合いは既に始まっており、特に2017年度後期に集中的に進めるつもりである。